



\*\*\*\*\*

## 「子育て支援を考える 2005」の報告

7月16日(土)に、「子育て支援を考える2005」を開催しました。この日は、天気が良く、土曜の午前中にもかかわらず、40人近い人たちが集まりました。2時間半という、長いようであつという間に過ぎてしまいました。分科会では、まだまだ話したりなかったこともあったようですが、参加者の方々は日頃の思いを話せたのではないかと思います。ここでは、その一部をご紹介します。



昨年「子育て支援を考える」の集まりから1年たち、その間、「かるがも・ねっと」が立ち上がり、子育て支援に関わっている機関・団体・サークルに少しずつ、そのねっとの輪が広がっています。そこで、今回の集まりでは、改めて、ネットワークをつくらうとしたきっかけ、その目的、この1年間の活動を振り返ることからはじめました。

その後、「第1分科会：乳幼児とその親への支援とは」と「第2分科会：児童・青少年に対する支援とは」に分かれて話し合いを行いました。

### 「第1分科会：乳幼児とその親への支援とは」

この分科会には、当日の参加者の3分の2が集まったことから、あらためて、乳幼児やその親への支援について関心を持っている方が多いことがわかりました。まずは現役ママたちから、「子育てをされていて大変だと思っていること」と「子どもがいて、よかったと思うとき」を聞いていきました。

「子育てをされていて大変だと思っていること」として、母親の体調が悪いときの子供の相手や、2人以上の子どもがいる場合、お風呂に入れたり連れ歩いたりするときなど、「ママ1人では大変」という苦労もあるようです。それと関連して、父親の仕事が忙しいことや、家事・育児に理解を示してくれないという不満も語られました。



また、子どもの遊び相手や遊び場、サークル活動への参加などに対する不安、子どもの病気・ケガの際の困惑・不安も多く挙げられました。さらに、雨の日の遊び場がないことや、地域差が大きく、交通手段が不足していることなどへの不満もありました。

一方、「子どもがいてよかったと思うとき」は、子どもがいっぱい楽しく遊んでいるときや、子どもが成長したなあって感じるとき、パパと子どもと幸せな気持ちにな

れるとき、などが挙げられました。また、家族や周りの人にママ業を評価してもらっているとき、うれしく感じる、という声もありました。

次に、サークルで活動をしている方からは、「コミュニケーションや言葉がけが不足している」という指摘や、「シルバー世代の人たちともっと交流があってもよいのでは」という提案もありました。また、「サークルをやっている現役ママたちも、『場を開いている』というだけで支援者といえるのでは」と励ましの声も聞かれました。

さらに、支援をしている方からは、「交流を求めているお母さん方がとても多い」「異年齢の保育をしたら効果があった」などの実感が語られました。また、こういった場への父親の参加がもっとあってもよいのでは、といった意見もありました。

## 「第2分科会：児童・青少年に対する支援とは」

この分科会では、今、小中学生のお子さんをお持ちのお母さんや、実際に児童・青少年に関わる活動をしている方10名ほどが集まり、現在の児童・青少年に関して話し合いがなされました。

今の子どもたちの問題点として、「3つの『間（ま）』がない」ことが挙げられました。それは「仲間」「時間」「空間」で、それぞれの「間」が失われていることが相互に関連しあって、いろいろな問題を引き起こしていることが話題となりました。また、社会のルールやマナーが身につけていないことや、携帯電話の普及などによってコミュニケーションが上手にとれないこと、学校の成績についていけないと居場所がなくなってしまうことなど、児童・青少年と社会とのつながりについても問題が提起されました。

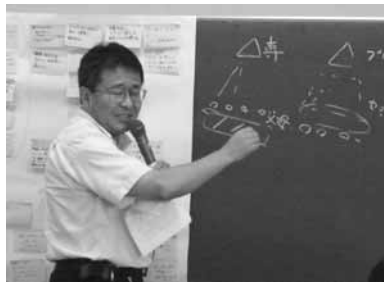


次に、それぞれの児童館や団体で行われている児童・青少年に対する取り組みをうかがいました。例えば、東児童館では、部活をさぼって児童館に来た中学生の、学校では見せない生き生きとした姿を学校の先生に見てもらい、学校での評価とは違った評価をしてもらったり、児童館に立ち寄ってもらっている地域の高齢者に、「がんばってるね」などと子どもたちに声をかけてもらったりしているそうです。そうしたことで、子どもたちは存在意義を確認し、自信をつけて、部活や学校に戻っていけるのでは、ということでした。

児童・青少年に関する問題については、「どうしよう、どうしよう、誰かなんとかしてくれないかな」と思うのではなく、東児童館の取り組みのように子どもたちの受け皿を広げたり、大人の認識を変えたりなど、やろうと思えばいろいろなことができるのではないかと、という提案がなされました。また、児童・青少年を対象に支援をしている機関・団体同士のつながりも必要ではないかという課題も出されました。

### ♪ コメント：筑波大学の飯田浩之先生

分科会の報告を受けて、飯田浩之先生から「かるがもねっと」の今後の課題についてお話しいただきました。



飯田先生：これまでは、子育てをしているお父さん・お母さんは、ときには行政などの専門機関に相談をしながらも、その周りには地域の人や祖父祖母という支援者に支えられて子育てを行って来ました。しかし現在では、そういった支援者が少なくなり、お父さん・お母さん方は孤立してしまっています。そのため、子育てにおいていろいろな問題が出てきています。

こうした状況のなかで、今、課題となっているのは、いわゆる「セミプロ」として子育て支援をしてくださる方々と、子育て中のお父さん・お母さんとの間をつなぐことです。「つなぐ」というのは、子育て家庭と子育て支援者や専門機関とのタテのつながりだけではなく、それぞれの中でのヨコのつながりも意味します。

「かるがもねっと」では、人をつなぐこと、情報をつなぐことを目的に、学習会などの活動を行って来ました。今日の集まりでは、さらに多くの方々が顔を合わせてつながりをつくることができました。こういったつながりを活用することが、いまひとつの課題となると思います。そして、まだサークルに入っていないお母さん方や、もっと困っているお父さん・お母さん方にも、こういったつながりを広げていくことも課題となるでしょう。

さらに、もうひとつの課題としては、「タテ割り」をなくすことです。特に行政ではそれが問題となっていますが、「かるがもねっと」も同じような理屈でタテに分断されてしまえば、何の意味もありません。タテにつながり、ヨコにつながり、そして、つながりを活用していくこと。これが今後の「かるがもねっと」の当面の課題といえるかと思えます。

## 🌸 「一時預かり」 についての紹介 🌸

－ 第 7 回 「かるがも・ねっと」 学習会 より －

6 月 13 日の学習会では、つくば市ではどのような「一時預かり」サービスが行われており、またどのような課題をかかえているのかについて、学習する機会を設けました。保育所・保育園での一時保育事業については、作岡保育所の中泉千恵子先生とかつらぎ保育園の小澤孝子先生から、つくば市社会福祉協議会で行っている「つくば子育てサポートサービス」については、鴨田章子さんから話を伺いました。

### \* 保育所・保育園での一時保育事業 \*

現在、つくば市内で一時保育事業を実施している保育所・保育園は、作岡保育所（市立）、かつらぎ保育園、フラワーチャイルド保育園、さくら学園保育園、の 4 カ所です。今回は、作岡保育所とかつらぎ保育園における一時保育事業の様子を伺いました。

#### 作岡保育所：中泉千恵子さん

作岡保育所での一時保育事業は、昨年（2004 年）5 月から始めました。対象は、つくば市に住む満 1 歳になっているお子さんで、8 時半から 16 時半までお預かりしています。はじめてお子さんをお預かりするときには、面接をします。母子手帳を見せてもらい、お子さんの出生状況やご家庭の状況を確認します。一時保育の説明を受けてから、予定があるときに電話で連絡をもらいます。こうした流れでお子さんを預かっています。お子さんを預けられる理由には、「介護の勉強をするため」「来年から幼稚園に入れたいので、子どもを集団生活に慣れさせるため」などが多いです。お子さん本人の病気の場合以外は基本的にはお預かりしています。

一時保育は、市から臨時で派遣された保育士 1 名が、在所児とは別の部屋で保育しています。ただ、毎月のお誕生会や夏季のプールは在所児と合同で、運動会や夏祭りなどの大きな行事には保護者同伴で在所児といっしょに行うなど、一時保育のお子さんと在所児との交流をはかっています。また、作岡保育所では、月に 1 度は保育所全体で一時保育に関するミーティングを行うなど、園全体で取り組んでいます。一時保育は継続性がないため、一日一日丁寧に保育していくことを心がけているほか、危険がないように気を付けています。



#### かつらぎ保育園：小澤孝子さん

市からの委託事業として、定員 10 名でお預かりしています。基本的には作岡保育所と変わりませんが、預けられる対象がつくば市以外に住む方にも広がられます。ただしその場合は、市内の方より 1 時間あたり 50 円増しでお預かりすることになります。預けられるお子さんの条件は、歩けるようになり、普通食が食べられる 1 歳半以上にさせていただいています。小さなお子さんをお預かりすることですから、一時保育は慎重に行っています。そのためにも作岡保育所同様、事前の面談は欠かせません。

### 一時保育事業とは・・・

お子さんをお持ちの保護者の方が、仕事の都合や家庭の事情（家族の危篤など）により、継続的にまたは一時的にお子さんの保育ができないときに、保育所（園）でお子さんをお預かりして保育を行う事業です。

#### 保育サービスの内容

- (1) 非定型保育サービス  
保護者等の労働、職業訓練、就学、通院などにより、家庭における保育が継続的に困難になる就学前の児童に対し、週 3 日（かつ 1 年）を限度として行う保育サービス
- (2) 緊急保育サービス  
保護者等の傷病、災害、事故、出産、看護、介護、冠婚葬祭、その他社会的にやむを得ない事由により、緊急かつ一時的に家庭における保育が困難となる就学前の児童に対して行う保育サービス
- (3) 私的保育サービス  
保護者の育児に伴う心理的・肉体的負担を解消するなどの私的な理由により、一時的に保育が必要な方のための保育サービス

#### 預かるまでの過程：

申請書 面接（保育所（園）では母子手帳を見せてもらい、お子さんの出生状況やご家庭の状況を確認します） 保育が必要になったときに保育所（園）へ連絡

利用される理由としては、お母さんの通院・健診や資格取得のため、上のお子さんの行事のためなどがあります。その他に、産前産後の場合は月に20日まで利用できます。また、週3日ほど仕事をしているが保育所に預けられない方の定期的な利用もあります。ただ、人数的に制限があり、緊急度の高い、急な預かりが必要になった方を受けいれにくいのが悩みの種です。以前、お母さん方が団体でお子さんを預けに来られたので、理由を聞いたら「ショッピングに出かける」ということがありました。利用料金が1時間200円と高くないので、いろいろな理由からお子さんを預けに来られます。しかし、こちらは限られた場所と定員でお子さんを見ていますので、どのように折り合っていけばよいか、ジレンマを抱えています。

かつらぎ保育園では、一時保育でお預かりしているお子さんは、保育園と園児との交流というより、支援センターに来ているお子さんとの交流が多くなっています。

### \*つくば市社会福祉協議会における一時預かり\*

#### 「つくば子育てサポートサービス」：鴨田章子さん

「子育てサポートサービス」では、働いている・働いていないにかかわらず、子育てをしている人が保育、子どもの送迎、家事援助などのサービスを受けられます。このサービスは、住民参加型の在宅福祉サービスということで、サービスを提供する人も市民のボランティアであり、サービスを受ける人も市民です。市民同士の助け合いによって成り立っています。そのため、サービスを受ける側も提供する側も、登録が必要です。

サービスを受けたい人は、登録をした後、サービスを受けたい日の1週間前に「つくばファミリーサポートセンター」に連絡をしていただきます。それを受けて、センターは登録された人の中から預かる人(子育てサポーター)を探します。その後、センターは預けたい人と預かる人を引き合わせ、お子さんを預ける際の打ち合わせを行います。

お子さんのお預かりについては「福祉」の考え方を拡大して、どのような理由でもよいことにしています。お母さんのリフレッシュも、その後に気持ちよくお子さんと向き合えるようになるならそれも必要だろうということで認めています。ただし、母親の習い事やリフレッシュなどは、週に1日を限度にしています。利用の理由で多いのは、保育所・学童保育などへの送迎や一時預かり、産前産後の家事援助や育児困難時、多胎児の場合の援助などです。高齢出産の方や多胎児をお持ちの方、育児困難な方などは、保健センターから子育てサポートサービスを紹介されてこられるようです。その点で保健センターとの連携がとれていると思います。

子育てサポートサービスが抱える課題として、子育てサポーターの力量に関することが挙げられます。お母さんご自身が病気を持っていて育児困難であったり、お子さんに発達障害があったりなど、専門性が要求される場合が増えてきています。そのため、サポーターの力量が問われています。そこで今後は、子育てサポーター養成のグレードアップをはかりたいと考えています。もうひとつは、サービスの利用料金のことです。私たちが心苦しく感じていることに、ひとり親家庭などで経済的に苦しい方にも、決して安くはない金額をお支払いいただかなければならないことがあげられます。その点、保育所などで一時預かりをより安い金額で利用できるようになったことは、とてもうれしく思っています。



### \*一時預かりの問題点\*

- ・保育サポーターに要求される専門性
- ・「保育ママ」のような保育施設への公的補助(認可外保育施設としても認められず、ボランティア保険などの公的な支援がない)
- ・本当に緊急で一時保育(預かり)が必要な人の受け入れ(お金が払える人が利用できて、単親家庭など経済的に苦しい家庭の緊急時に利用が難しい)
- ・家庭の事情や生活リズムにどこまで合わせるのか、二重保育、三重保育より、延長保育が望ましいのか

## ◎◎その他の一時預かり◎◎

### \* 保育ママ「あっぷりけ」

個人宅を使って、家庭的な保育をするのが特徴で、開始してから11年になるそうです。1日1人定員とご自分で基準を決めて保育を行い、その日の状況をノートに記してお渡ししているなど、きめ細やかな保育が特徴です。

### \* 幼稚園における一時預かり（幼稚園における子育て支援資源調査の結果から）

私立幼稚園：吉沼幼稚園、いなほ幼稚園、みのり幼稚園

子どもの一時的預かりを実施（6月13日現在、入手できた調査結果から）。

# 「幼稚園・保育所における子育て支援に関する調査」の結果

## 子育て支援の資源調査！！速報第2弾

市内にある認可幼稚園27園と認可保育所34園に対して、「子育て支援」の取り組みに関する調査を行いました。今回のニュース・レターでは、全61園の内、7月1日までに回答のあった幼稚園22園、保育所23園についての調査結果の一部をお知らせします。

### 子育て相談・園庭開放

つくば市内にある幼稚園と保育所は、子育て支援として子育て相談・園庭開放をどの程度行っているのでしょうか。まず、電話相談を行っている園は、幼稚園では5園、保育所では8園ありました。受付時間は各園で異なっていますが、開園時間内であれば随時受け入れているところも多くあるようです。また、来園・来所相談については、随時受け入れているところや施設開放と併せて実施しているところ等、その実施方法はさまざまでした。

園庭・所庭開放については、幼稚園・保育所共に、積極的に取り組んでいる様子が見られました。多くの園では、日にちや時間を決めて実施していますが、中には、平日の通常保育の終了後の15時以降にいつも開放している幼稚園もありました。幼稚園や保育所が、地域で子育てをしているご家庭にとって、身近で気軽に通える場となりつつあるようです。

子育て支援活動	実施園数（園）	
	幼稚園	保育所
電話相談	5	8
来園相談・来所相談	6	10
園庭開放・所庭開放	9	15

### 幼稚園における子育て支援活動の取り組み

幼稚園では、「未就園児の親子を対象とした行事の開催」に多くの園が取り組んでいました。具体的には、「園庭でのシャボン玉遊び」や「お店屋さんごっこ」といった親子で楽しめる遊

幼稚園の子育て支援活動	実施園数
未就園児の親子を対象とした行事の開催	7
未就園児の親子を対象とした体験保育の実施・園行事への招待など	6

びを企画したり、「子育て支援講演会の開催」など子育てについて学習できる場を提供したりしています。これらの行事等に関する情報は、市報や各園のチラシなどでお知らせしています。

### 保育所における子育て支援活動の取り組み

保育所では、地域に住む親子を園の行事に招待する活動が多く行われていました。中でも、運動会や夏祭り、お店屋さんごっこなどの行事に、地域に住む親子を受け入れている例が多いようです。また、地域子育て支援センターを設置している保育所では、各センターでクラブを作り、地域の子育て家庭に対する行事の開催などに積極的に取り組んでいるようです。

他にも、児童館の幼児クラブや障害者センター、けやき広場との連携・交流活動を取り入れている保育所がいくつか見られました。入所しているお子さんと他の機関に通うお子さんとの交流活動を定期的に設けているようです。また、他の連携の形として、児童館のクラブに保育所の職員が行き、遊びや関わりを伝えたり、病院と連携して小児健康相談を開いたりしているところもありました。ここからは、つくば市の子育て支援をめぐる、さまざまな機関が協力・連携している様子がうかがえました。

保育所（園）の子育て支援活動	実施園数
地域の子育て家庭に対する行事の開催	2
保育所行事への招待	5
他機関・団体・サークルとの連携・交流	3

## ♡♡お知らせ♡♡

### 第 8 回学習会「つくば市家庭相談員について」

今回は、つくば市家庭児童相談室の家庭相談員である秋元元子さんに、家庭相談員の仕事と、悩みや問題を抱えている子育て家庭の現状についてお話を伺う予定です。また、「つくばスタイルフェスタ」に出展するブースの企画に関しても話し合いを行います。是非、ご参加ください。

日時：平成17年9月12日（月） 10：00～12：30

場所：つくば市桜庁舎4階 第4会議室

### 10月に開催される「つくばスタイルフェスタ」に参加 「かるがも・ねっとブース」へのポスター展示・パンフレット等の参加 を募集します！！

10月1日～31日まで、つくばエキスポプレスの研究学園都市駅にて開催される「つくばスタイルフェスタ」の市民活動団体の紹介ブースの一画に、「かるがも・ねっと」のブースを出します。「子育てしやすい街つくば」というコンセプトを打ち出し、つくば市にどのような子育て支援があるのかを広く知ってもらう機会にしたいと考えております。みなさんの活動をアピールする場として是非使ってください。ご協力をお願いします。

参加内容：各機関・団体・サークルの活動紹介のポスター展示  
各機関・団体・サークルを紹介するパンフレット・チラシ等の配布  
遊びコーナー、ちょっとした交流コーナー、授乳コーナーなど

期 間：10月11日（火）～17日（月）の7日間  
10：00～16：30

※詳細は別紙の「ご報告とお願い」と参加要項をご覧ください。

問い合わせ先：TEL&FAX 851-5263（星埜）

メール edu\_socio@yahoo.co.jp（筑波大学教育社会学研究室）

発行：つくば市子育て支援ネットワーク **かるがも・ねっと**（設立準備委員会）

「かるがも・ねっと」は、つくば市にある子育て支援に関わる機関・団体・サークル、ボランティアのネットワークでつくられています。

発行日：2005年8月12日

編集：遠藤宏美・丹治恭子・渡辺恵

問い合わせ先：edu\_socio@yahoo.co.jp / FAX: 029 - 853 - 4829（筑波大学教育社会学研究室）